

まちかど

アルバム

子や孫の健やかな成長 を託す麒麟獅子舞

国府岡益

3月11日(日)、県内最古の獅子頭が伝わる国府岡益の稲荷神社で春のお祭りが行われ、麒麟獅子舞が奉納されました。

頭に1本の角を持つ麒麟獅子

は、中国大陸に伝わる霊獣「きりん」に由来するもので、全国的な神楽獅子とは違い、因幡地方とその周辺にだけ伝わる貴重な獅子舞です。江戸時代初期、初代鳥取藩主池田光仲公が広めたとき、現在も140を超える獅子舞が伝承されています。お祭りでは、地域の安全・安心を願い、獅子舞が各戸を訪問。この獅子に頭をかんでもらうと、1年間無病息災で過ごせると言われることから、小さなお子さんのおも、なんとか獅子に差し出すお母さんと子ども



力くらべが見られ、子や孫の健やかな成長を託す家族がほほ笑んで見守ります。春のお祭りは、田の仕事を始める前に安全と豊作をお祈りし行われるもので、市内各地で春のお祭りが行われると、やがて農作業に忙しい季節を迎えます。

桃の節句で「どーん！」

佐治町福園

3月1日(木)、佐治歴史民俗資料館で、地区公民館事業の民俗行事体験で、どん菓子(おいり)づくりの実演が行われました。参加した佐治小学校1、2年生の児童は、初めてみる機械に不思議がりながらも、加熱により「どーん！」という大きな音とともにお米が大きく膨らむ様子を、耳を手でふさぎながら見入っていました。子どもたちは、できたてのどん菓子をおいしそうにほおばりながら、「お米がこんなになるなんてびっくりした」、「できたては熱いけどおいしい」と、家では体験できない桃の節句を楽しんでいました。

高く高く積み上げる

商栄町

3月3日(土)、商栄町団地卸センター会館で行われた感謝祭で、トイレットペーパー早積み競争が行われ、イベントに訪れたたくさんのお子もたちが記録に挑戦しました。挑戦者たちは、包装紙の微妙な凹凸に大苦戦。誰よりも高く積み上げようと一生懸命に取り組みましたが、中には高く積み上げ一等賞を目前にしながら倒れてしまつ場面も。観客も思わず「あー」と声をあげ、会場は大いににぎわいました。競技を終えた子どもは、「最後に倒れてしまつて残念賞です」と、悔しがりながらも、白熱した競争を楽しめた様子でした。





地域で楽しい思い出づくり

賀露町南五丁目

3月10日(土)、賀露地区公民館でピザづくりが行われ、湖東中学校新2年生の生徒6人が参加しました。生地作りは初めてで、イースト菌で膨らませた生地の感触に「赤ちゃんのほっぺたみたい」と感激しました。エビやしめじなど、お好みの具をトッピングし、香ばしい香りとともに焼き上がり。味にも大満足で、学校や地域活動での出来事を話題に会話も弾みました。「行事は楽しいから参加します」、「楽しい思い出は一つでも多い方がいいので、参加者大募集です」と、地域活動に対する思いも教えてくれました。



プロから学ぶ健康づくり

気高町浜村

2月29日(水)と3月7日(水)、気高地区保健センターで健康維持のための運動方法を学ぶ講習会が行われました。ボブスレー日本代表としてオリンピック出場経験を持つ小林竜一(こばやしりゅういち)さんを講師に招き、水中ウォーキングやマシントレーニングの効果的な運動方法から、その効用までを学習。参加者は、「腹筋を意識して」、「背筋の場合は体重の50%の負荷をかけてください」などのアドバイスを受けながら、トレーニングに打ち込みました。参加者たちは「健康維持や筋力づくりに活用したい」と感想を話していました。



新たなにぎわい拠点が誕生

若桜町

3月14日(水)、鳥取市の中心市街地若桜街道に新たな交流スペースが誕生しました。その名は「こむわかさ」。100円パンや惣菜、農作物などを販売するほか、カフェや交流スペースも設けられ、子どもからお年寄りまで、世代を超えた交流が生まれる場所として期待が寄せられています。この日を待ちわびていた人たちが列をなす中、地元の小学生らが記念のくす玉を割り、いよいよオープン。お気に入りのパンや新鮮な野菜を買い求める人たちがにぎわい、初日から大忙しの店内となりました。



よい汗キラリ！卓球大会

河原町曳田

3月11日(日)、河原町勤労者体育館で「河原町子ども会育成卓球大会」が開催されました。大会には3人1組でチームを組み、小学生18チーム、中学生3チームが参加。それぞれ分かれて対戦しました。ミスをしないうような着実に返球し得点をねらう子どもや、大人顔負けの鋭いスマッシュを決める子どもなど、プレースタイルは様々ですが、みんなが寒さに負けず元気いっぱいプレー。額に汗をにじませながら熱戦を繰り広げた結果、小学生は佐賀Aチーム、中学生は散岐女子チームが優勝しました。